

市民の手で市民活動を支える

認定 NPO 法人

宝塚 NPO センターニュース

2014
March

No.78

発行人：牧里 每治
編集人：中山 光子

このニュースの編集・発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています。

2013 年度を振り返って

市民の思いをカタチにするのが私たち宝塚 NPO センターの力。

あなたが **働きかけると**
社会が少しづつ
動いていく



「あなたが働きかけると社会が少しづつ動いていく」とセンターの入会チラシに書いてあるのにお気づきでしょうか。経済が上向いていると言われても実感がわかない。東日本大震災から3年経ても放射能の不安は消えないなど、自分たちだけでは解決できないことに漠然とした不安を感じる日々。そのような社会であっても、自分たちで出来ることはやっていこうと動かれた方々、自分の立っている場所を360度見渡し「何とかしなくては」「ほっとかれへん」と動き出した方々と一緒に考え動いた1年でした。大きな動きではなくとも、地域の小さな幸せが作られ広がっていき、良い社会を作る一步になるとの思いがこの言葉には込められています。

地域育成会に入れない子どもを預かる事業をしている設立したばかりの学童保育 NPO は、学校と協働しているにもかかわらず地域の組織「まちづくり協議会」には繋がってない。正確に表現すると、どこの誰に話をしたら地域の方々と繋がれるのかわからなかったとのこと。一方、地域で活動されている役員さんは「自分の地域の課題を解決してくれる NPO さんとどこで出会えるのかわからへん」と言われる。

私たちは行政がタテ割りで動いていると批判しがちですが、市民社会もいつの間にか「タテ割り組織」になり、「出

会う」ことが難しくなっているのかもしれませんが。そのうえ、年代や生活環境によっても異なる地域課題には諸々の側面があり、絡み合っています。そのような状態にすぐ効く薬などありません。だからこそ、課題の中に住む私たちが知恵を出し合いゆっくりと対話を重ねていく必要があるのでしょう。「靴の上から足を搔く」私たちの仕事をこのように言われた人がありました。言い得て妙と感心しきりでした。直接、痒いところに手を伸ばすことはできないもどかしさから、色々なことを試してみる。その過程で対話が生まれ、つながりができていく。地味ではあるが、来年度もコツコツと対話の場を作っていくのが、宝塚 NPO センターらしい「社会の動かし方」と考えています。

宝塚地域若者サポートステーションを新設した今年度は、20代30代スタッフも増え計16名となりました。徐々にセンターを訪問された方からは随分と変わったと言われることが多くなりましたが、創業時から参加されている80代のボランティアさんと新人の20代スタッフが一緒に仕事をしていることは、私たちの誇りです。

さて来年度は、宝塚市役所の近く末広中央公園に隣接している勤労市民センターの指定管理事業に取り組みます。これまで、貸室として使用されることが主だったこの建物を市民が行き交う場にしたいと、私たちならではの企画を立てているところです。ご期待ください。

最後になりますが、今年度は多くのご支援をいただき心より感謝申し上げます。来年度も更なる発展、飛躍に向けて、より一層の努力をいたしますので、更なるご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



今年度は「私が働きかけると社会が少しずつ動いていく」とのテーマで、さまざまな場でご活躍の皆さんをご紹介させていただきました。今年度の最終号は、当センターが取り組んだ11事業のうち7事業をトピックスで紹介させていただきます。

宝塚市市民活動促進支援事業

協働で宝塚のまちをチョット良くするお手伝い

きょう・どう井戸端会議で知り合った縁からまちの活動を知る。興味を持って実際に参加してみる。参加するとそこでは色々な課題があることに気付く。どうすればワタシの関わるまちはよくなるのだろうか？そのためにワタシはどんなことが出来るのだろうか？

今年も我がまち宝塚をチョット良くしたいと志す様々な方々との出会いがありました。中でも地

域参加準備講座に参加された86歳の男性。地区17世帯が係わるゴミステーション美化に心を尽くされているご自身の活動を、手に取った「宝塚市協働の指針」を読まれて「ああ、私の活動は協働やったんや！」と感慨深くされていたのが印象的でした。今年度12のNPO法人・CBが宝塚に誕生。障がい児と家族への支援、学童保育待機児童への対応、国際交流、父親の育児参画促進、芸術・スポーツを通じた健全育成、パソコン支援、リサイクルを通じた国際貢献など多様な活動が始まっています。(YK)

生きがいごとサポートセンター事業

シニアの更なる第一歩を応援

今年度実績は起業29団体、216名の就職成
立者。(2月末現在) その中シニア世代は起業で

約50%、就職で約30%をしめています。定年前後に自身のキャリアや特技を生かし起業する方、少して



も社会に役立つことがしたいとNPO等で新たな取り組みを始める方が多くおられました。そのような中「4日間シニア大学」を開催。既に活動をスタートされている実践者の話や地域活動先進事例への視察を通して、「起業」「就労」「ボランティア」「地域参加」をテーマに皆さんが社会に関わるキッカケを探っていきました。授業の1コマとしてIT支援・ジャムの製造販売で起業した2名に対して受講生による仮想理事会を実施。様々な意見が飛び交う時間となり、起業する方だけでなく活動を支援することも社会参加する形であることを体感することになりました。シニアの力が地域を動かすバネになっていきそうです。(W)

地域若者サポートステーション事業

未来の社会を動かす支援

新規事業として厚生労働省より受託し、5月に開設した「宝塚地域若者サポートステーション」(愛称「ツカサポ」)は、今年度2月末現在で来所者述べ人数1634人、相談件数1102件、進路決定者数89人となり、初年度の目標を達成することができました。

この事業の目的は働きたいが様々な課題を抱えている若者が、自分の能力を発揮できる場所を探す一助となることです。若者に寄り添い、宝塚NPOセンターがこれまで築いてきた地縁団体・

NPOやその他関連機関とのネットワークを通じて、就労体験やボランティア体験等を行いながら、進路決定につなげるよう取り組んでいます。若者が半歩ず

つでも前進し、働くことで社会の中で居場所を見出していく姿は私たちの励みとなっています。来年度も引き続き、彼らが社会を動かす人となることを支えていきます。(HK)



ひょうごボランティア基金 NPO・行政協働事業 若者と里山のコラボで地域活動の継続を推進

受験勉強や仕事等で忙しいけど「里山が大好き！」な若者で里山整備体験や広報を企画し実施する「里山作戦会議」を結成。

5回にわたる里山整備体験をフェイスブック上で動画公開したり、北摂里山に関するイベントへの参加など自発的な活動参画を促すことで、若者が少しずつ自律的に動き始めています。(YK)



ひょうごボランティア基金中間支援活動事業 地域の力を発見し、わかりやすく伝える



NPO や地域の活動はコンビニのように目立つ看板を立てているわけでもなく、カラフルな広告等ありません。社会のために頑張る NPO 法人が兵庫県だけでも 2000 団体以上存在していますが、多くが地域の中で活動を知られていません。そんな NPO 等の地域活動の現場に出向いての訪問支援を通しながら、発見した地域の力を伝える道具としての活動事例集「いま・ここ」を作成。市民の方々が身近な NPO や地域の活動を知り、地域の中で個人や団体がつながり、協働して活動していけるきっかけとなりました。(W)

東日本大震災支援事業 避難者の暮らしの安定と安心の支えとなって

「お茶っこカフェ」は参加者の意見を反映し、母子避難者のみの集いと地域でつながりが作りにくい単身者・男性・高齢者の集いを隔月で開催。参加対象者を分けたことで「初めてこの様な交流

会に参加して家から出るキッカケになりました。」との言葉を初老のご夫婦からかけられました。

早や3年がたった東日本大震災に、私たちが宝塚で出来ることはまだまだあると思うと共に、形は変化しても支援は継続していこうと考えています。(KS)

ひょうごアドプト推進事業 美化活動から始まる協働の地域づくり

武庫川河川敷でアドプト活動をしている宝塚市内5団体が協働で美化活動に取り組みました。活動場所は通常の場所ではなく、皆が日頃から気になっていた草深い場所。このようなつながり作りを宝塚市内だけでなく阪神北県民局管内で広げていくために、12月4日に活動している29団体を対象にした交流会を初開催。同じ活動をしている団体の交流は活発な意見交換が飛び交い、まさ

にアドプト活動を通じたまちづくりの場となりました。今後も事務局として美化活動からの地域づくりを支えていきたいと考えています。(YS)



宝塚市立勤労市民センター指定管理者になりました！

宝塚市立勤労市民センターは、宝塚市役所横の末広中央公園に面した市内の中心施設ですが、現在認知度が低く、利用者も少ない状態です。2014年4月よりそんな施設の指定管理を宝塚NPOセンターが受託する事になりました。

施設管理を得意とする専門会社ではなく、私たちのような小さな中間支援NPOに管理を託してくれた市や市民の期待に応えるべく、活気のある施設に変えるため様々な企画を用意しています。私たちのネットワークと企画力で宝塚の“活動人”を増やし、巻き込んでいく事で当施設を有効活用し、収益は市民のためにわかりやすい形で還元していきます。

まず5月には、その第1弾企画として、忍者が教える子どものためのざぶとん体操「ざぶとん忍者でござる」を開催し市内の子ども達の思い出に残るような体験を準備中です。追って詳細はホームページ、チラシ等でお知らせします。

どうぞみなさんご期待ください！



ご支援ありがとうございます（順不同、敬称略 期間：2013.03.11まで）

●新たに入会された皆さん

【賛助会員】森脇やすと、中山実香、中山竜一

●寄付をいただいた皆さん

ろうきんNPO 寄附システムご利用の皆さん・佐藤誠・牧里毎治

宝塚市立男女共同参画センター フェスティバル実行委員会さんから

東日本大震災支援にご寄付をいただきました

12月に宝塚市立男女共同参画センターエルで開催されたエルフェスタのバザー収益金を東日本大震災支援に役立てていただきたいと、実行委員の皆さまがセンターに届けてくださいました。

来年度の東日本大震災支援に有効に使わせていただきます。ありがとうございます！

会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。
※認定NPO法人への寄付は税制面で優遇されます。

	個人正会員	団体正会員（NPO法人他）	法人正会員	賛助会員
会費	10,000円	10,000円	30,000円	3,000円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930 - 8 - 77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター

オンラインで
会員登録・寄付が
出来るように
なりました！



<https://mp.canpan.info/zukanpo/>

認定NPO法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845
宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
Tel: 0797-85-7766
Fax 専用: 0797-85-7799
利用時間: 9:00 ~ 18:00
休館日: 月・日・祝日・年末年始
Email: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net

生きがいしごとサポートセンター-阪神北
Tel: 0797-87-4350
Fax 専用: 0797-85-7799
Email: cdc@hnpo.net
URL: http://cdc.hnpo.net

宝塚地域若者サポートステーション
〒665-0845
宝塚市栄町1-1-9
アールグラン宝塚2F
Tel: 0797-69-6305
Fax: 0797-69-6315
Email: zukasapo@hnpo.net
URL: zukasapo.hnpo.net

紙面に関するご意見・ご要望を左記までお寄せください。